

## 520) 他人の家

我がマンションは 100 世帯以上が住む団地のようなマッチ箱タイプで、両サイドを除いて、同じ間取りの家が規則正しく並んでいる。エレベーターは 3 機もあるのだが、各階停まりは 1 機だけで、あとは奇数階行きと偶数階行きである。その日は確かに少し酒に酔っていたが、千鳥足というほどではなかった。バス停からしっかりと足取りで歩いて家まで帰ってきたのである。ところがマンションに着くと、エレベーターは偶数階行きしかなく、あとのものはすべて上のほうに行ったままになっていた。我が家は 11 階であったから、やむなく偶数階行きに乗って、12 階まで行き、階段で 1 階分降りることにした。家まで辿り着いて、「只今～」と言いつつ、玄関に入って靴を脱ぐと。奥から「お帰りなさい」と言う声がして、中から女房殿が迎えに出てきた。なぜかいつもよりずいぶんと若々しく、また私の目には偉く美人に見える。ところが女房殿が大慌てして奥に入って行ってしまった。私はどうしたのだろうと思ってリビングに入る扉を開けると、どうも景色が違う。そうだ小生は途中で、階段を 1 階分降りなければいけなかったことをすっかり忘れて、12 階の佐藤さんのお宅に上がり込んでいたのである。それにしてもご主人がいなくて良かった。ここのご主人は柔道 4 段で警察に勤めていたのでありました。